

令和 6 年度

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900082		
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい		
事業所名	グループホーム いこいの華 B棟		
所在地	〒029-3101 岩手県一関市花泉町花泉字地平21-8		
自己評価作成日	令和6年8月15日	評価結果市町村受理日	令和6年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhvu](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『信頼・親身・進取』を社是としており、この言葉通り入居者様に信頼される存在、笑顔で寄り添う介護、自ら進んで対応に当たるよう職員一人一人が自覚を持って仕事をしております。入居者様一人ひとりと向き合い、その方の望まれる生活、やりがいをもつ楽しみ、不安なく、その人らしく生活できるよう日々寄り添いながら介護にあたっています。新型コロナウイルスまん延防止の為地域交流、面会制限を設けてましたが、去年の5月より新型コロナウイルスが5類となったのを期に徐々に面会制限を無くし、地域交流も元のように戻りつつあります。まだまだ、新型コロナウイルスの影響はありますが、以前のように外出、地域交流を増やし利用者様の日々の生活に楽しみを持った暮らしができるよう今後も考えていきたいと思っております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和6年9月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設14年目の事業所は、A棟とB棟の2ユニットに18名が入居している。玄関を挟みL字型に配置された各棟間の往来は自由で開放感もある。職員は社是である「信頼・親身・進取」を心構えとし、事業所の「ケア理念」「運営理念」を共有し合い、一人一人の利用者に笑顔で優しく寄り添い、信頼される職員を目指し日々介護サービスの向上に努めている。コロナ感染防止に配慮しながら、春にはプランターに花を植えるなど、季節に合わせた花見や紫陽花見学、高倉山の紅葉狩り等、利用者全員でドライブを楽しんでいる。室内でも利用者は職員と一緒に折り紙を折ったり運動会等を楽しみ、元氣一杯に過ごしている。医師による訪問診療や訪問看護ステーションの看護師が定期的に来訪するなど密接な医療連携が確保されており、利用者、家族、職員からも安心感をもって受け止められている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に運営理念を掲げてます。また、事務所内に理念を掲示しており、毎朝唱和し理解を深めます。施設独自の目標も掲げてます。	職員は「社是」の「信頼・親身・進取」を心構えとし、事業所で定めた「運営理念」「ケア理念」を日々確認し、利用者の支援に努めている。職員会議やケアプランの検討の際にも理念を再確認しながら、利用者一人一人に合わせたケアサービスの向上に取り組んでいる。	理念がどのように、どの程度職員に浸透し、理解されているかを把握するため、定期的に職員間で理念を確認し、職員の目線と方向性を合わせながら、利用者の支援に取り組むことを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設敷地内に地域交流センターがあり、地域の方々にご利用いただいています。地域の方々から、タオルやシーツの寄付を頂いたり、交流センター近くの草取り等を行って頂き、利用者様が暮らしやすいよう援助頂いています。	町内会に加入し、回覧板も回って来ている。区長も運営推進委員になっており、繋がりは保たれている。地域の方々による事業所周辺の草取りの他、タオルやシーツの寄付も頂いている。また隣接の地域交流センターでは、市の保健センター主催の「百歳体操」が毎週、地域の方による「かたりべの会」が毎月それぞれ開催されており、その機会を活かして地域との交流を増やしたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回花泉町内にあるグループホーム2施設と包括と共に認知症カフェを町内のスーパーの一角をお借りし開催しております。職員を毎回変えて参加しており、地域との交流、認知症の相談を行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症まん延防止の為、紙面での開催を行い、事前に意見、要望を伺いサービス向上に活かしています。	書面会議をこの7月から参集方式に切り替えて開催することができた。委員からは「利用者の姿を見ることが出来て良かった」など率直な意見や要望が寄せられおり、これからの運営に活かしたいとしている。また避難訓練にも参加していただき、事業所の実情を知っていただく良い機会となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議紙面で事業所の動きや、実情を載せております。また、何かあれば直接電話し相談するようにしています。	市委託の地域包括支援センターからはすこやかカフェ開催の情報や様々な指導をいただいている。要介護認定申請などの手続きは市の窓口に出向いて行い、運営推進会議の議事録は直接届けるなど、メールでのやり取りを含めて、良い関係性が築かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内、社外の研修に参加し職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでおります。また、入所前に、家族様にも身体拘束による弊害、認知症の悪化等を説明し、しない、させないという事業所の取り組みにご理解頂いております。	適正委員会は法人主催で3ヵ月毎に開催している。毎月の職員会議や事業所内外の研修では、拘束事例を通して学び、拘束をしないケアを実践している。スピーチロックについては、職員間で互いに注意し合っている。施錠は防犯のため夜間のみである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同じく、研修にて職員に周知しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し職員全員で理解するようしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ説明を行うようにしています。また、疑問点や、不安点を確認しながら説明するようしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議資料にて施設の実情を載せるようにしています。また、通院や面会時に最近の状態をお伝えし、ご家族様のご意見も伺うようにしています。	家族には運営推進会議の資料を配布しており、とりわけホーム内において利用者の様子を撮った写真が好評を得ている。また通院同行や面会に見えた際には、意見や要望を伺うようにしており、いただいた意見や要望は、職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の行事を職員が決めるので、職員会議で意見、提案を話す機会を設けています。また、個別に関しては、管理者からさりげなく声をかけ、二人でいる時に話やすい環境を作るようにしています。	管理者は年2回の個別面談を実施している他、職員会議での意見等の提案ばかりではなく、日々の業務の中でいつでも耳を傾ける姿勢とその環境づくりに努めている。これまで、職員の提案で、昇降ベットやリクライニングの椅子、エアーマットやスライドシートの導入、エアコンの取り換えなどを具体化している。	

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を付けてもらい、面談を行っています。その中で、意見や要望を聞き、できるだけ職場環境、条件が合うよう勤めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月社内研修を行っており、全員参加で介護の勉強を深めている。また、外部研修にも参加してもらい、職員会議で研修報告を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェで同じ町内のグループホームの職員と話す機会があり、その際に情報交換や同じ悩み事を話、サービスの質の向上をはかっています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、家族様、ケアマネ様、施設の方にその方の生活内容や、生活歴、困りごと等を伺い、施設に入所しても不安なく過ごせるよう職員全員で理解し安心して暮らせるよう勤めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	調査の際に本人の居ない所で家族様の困りごと、不安等を伺うようにしています。本人の前では語れない事でも実際の困りごとを話してもらい施設での生活内容、通院、金銭に関して相談に乗るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査の段階で一番何に困っているかを聞き取り、入所前にどう対応するか話し合いを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から職員に声をかけ、「何かあったら言ってちょうだい。できる事あったら手伝います」や「ただいだけではなく、何かやらねばならない。」と率先して動いてくださいます。		

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、通院時に施設での生活状況、身体状況を伝え、家族様からの気持ちや、不安事を聞き取るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様との外出、一時帰宅、面会をいつでも行えるよう支援しています。事前に連絡を頂き、どなたが迎えに来るかを伝えていただいて施設でお出かけの準備を整えています。	家族との外出や一時帰宅、面会はいつでも出来るよう支援している。通院時には自宅に立寄り家族や親戚に会ったり、昼食を食べて帰る方も多い。また2ヵ月毎に来所する理容師が馴染みとなったり、馴染みの美容院へ出かける事を楽しみにしている利用者もいる。職員は馴染みの関係が途切れないよう支援を行なっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールに来られ、掃除、洗濯、茶碗洗い等を率先して行ってもらい、足の悪い方のお膳を下げて頂いたり、椅子から立ち上がるのを手伝ったりされる方もおります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、困り事や相談事は受け付けるようにしています。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中で、言動や顔色等見極め、その方の不安や心配事を汲み取り、職員間で共有し、不安や心配事を取り除けるよう話し合いを行ってます。	利用者の多くは、自分の思いや意向を話すことは出来るが、細かな思いなどは表情や仕草から汲み取っている。風船パレー、折り紙などの日々のレクリエーションは、利用者の意向に合わせたものを行い、皆で楽しめるよう支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、本人、ご家族、関係者等に何うようにしています。また、入所後でも、ご家族様から家族の関係性や、ご兄弟の現在の関係性を伺う機会もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日日報や申し送りノートを確認し、最近の状態を把握し、一人一人にあった、生活リズム、レク内容を考えてその方に合った生活ができるよう努めています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族様に意見、要望を伺い、できるだけ希望に沿ったプランを作成するようにしています。また、職員会議等で、新規の方、プラン更新の方のプラン説明をし、職員から見た現在の状態を聞き、プランの参考にしてます。	職員全員で利用者一人一人のモニタリングを行い、職員会議で業務日誌や個々のケース記録に加え、現在の状態についても話し合っている。計画作成担当はその結果に沿って、現状に即したプランを作成している。見直しは6ヵ月毎に行い、緊急性のある場合はその都度見直している。家族の同意を得てプランとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を小さなことでも記録し、利用者様の状態を全員で目を通し、何か変化があれば職員会議で話し合いを行ってます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態、家族様の状況に合わせて、その時に最適なサービスを検討し提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の文化祭に作品を出品したり、施設行事で職員と一緒にできる踊りや歌に参加したり、地域の保健センター開催の講和に参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に通われている方もおり、施設に入所しても関係性を断ち切らないようにしています。また、歩行が不安定や家族様の希望で訪問診療に切り替える方もあります。希望があれば、皮膚科、歯科の訪問診療も行っています。	7名が入居前からのかかりつけ医を利用し、11名が月1回の訪問診療を利用している。かかりつけ医の受診に職員が同行する場合もあるが、原則は家族同行としている。定期通院の際には、現在の状況をメモ書きで家族に託し、受診結果は家族及び医師から伺っている。薬は薬局から届けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1カ月に2回協力病院から訪問看護師が来てくださり、体調面での相談を行ってます。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、速やかに情報を提供し、相談員さんと連携をもって、退院まで情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書に重度化、看取りについての指針が掲載されているので、契約時に重度化看取りについて説明しています。当ホームでは看護師が不在なので、医療行為ができない事を説明しています。	令和3年の春に職員全体での勉強会を行った上で看取りを経験をしている。現在は事業所内に看護師が不在のため、医療行為ができない状況にあるり、利用者が終末期の段階に至った際には、本人や家族の意向を基礎にして、かかりつけ医の協力を得ながら支援を続けることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修で急変時、事故発生時の動き方について学んでおります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCPを作成しており、研修を行うようにしています。年2回の避難訓練では地域の方にも協力頂き利用者様の避難誘導をお願いしています。また、この地域は土砂災害はありませんが、ため池が近くにある為、ため池防災マップの作成を待ち、完成されたらそれに乗っ取っての危険箇所を把握する予定です。	BCP(事業継続計画)は作成しており、年2回の避難訓練を計画している。この6月には運営推進委員や地域の自主防災組織、地域の方々から避難誘導の協力を得ながら、火災想定の実施している。10月には消防署の立ち合いの下で、夜間想定の実施を計画している。運営推進委員である区長は、発災時に支援いただけるホームの心強い存在である。	火災を含む災害は、地域に住む方々の課題でもありお互いさまの面もあることから、避難訓練の際には、近隣の皆様に事前にお知らせするなどして、理解と協力を得ることを期待します。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けを行っています。人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、丁寧で、わかりやすい言葉を選び、ゆっくりと話すようにしています。	利用者一人一人に合わせた対応を行い、言葉遣いに配慮しながら支援している。名前を呼ぶ時には「さん」付けで行い、居室に入室の際には、ノックし了解を得てから入るようにしている。利用者個々のケース記録は事務室に保管・管理し、タブレットも活用している。安全対策のため、ホールにはカメラを設置している。	
----	------	--	--	---	--

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が可能の方には自分で決めてもらうようにしていますが、重度の認知症状がある方や、寝たきりの方に対しては、出来るだけ理解しやすい声掛け、説明を行うようにし、顔色や、しぐさで判断するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクは一人一人に合わせ、その日にやりたいものを選んでもらってます。何もしたくない日もあり、無理強いせず、一人一人に合わせたペースでお誘いしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設にも床屋さんは来ているが、馴染の美容院に行かれる方もおり、施設でも送迎を行っています。また、新しい服を購入希望の方には送迎一緒に買い物を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りを定期的に設けており、自分で作る楽しさを提供しています。また、食事後の片付けを職員と一緒にしています。	法人で設定した献立に沿って給食部から昼と夜のおかずが配送され、ご飯とみそ汁だけは各ユニットの職員が作っている。月に1、2回の行事食は、利用者の好きなメニューを聞き、弁当や寿司、ラーメン、冷やし中華等を提供している。おやつ作りは、女性だけではなく、男性の利用者も喜んで参加して皆で楽しんで作っている。利用者は、食事前後のテーブル拭きや下膳、食器洗い、食器拭き、洗濯物のたたみ、食材の皮むき等、出来る事を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせた量、道具、形態、時間を考え提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員に歯科衛生士がいるので、ブラッシングの仕方、口腔内に何か異変が生じた場合は見てもらい、必要に応じて歯科医院に連絡して訪問診療に繋がっています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハパン、布パンツの方もおり、その方のリズム、パターンを覚え、定期的に声掛けを行うようにしています。	布パンツを使用し自己管理出来ている方が6名、11名の方はリハビリパンツやパット、1名の方はオムツを利用している。夜間のみ杖歩行の方がポータブルトイレを使用し、頻尿や転倒のリスクのある7名が離床センサーを使用している。失敗した場合には、皆に気づかれない様、静かに取り替える等、一人一人の利用者に合わせた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用し、定期的に排便があるか確認をしています。便秘予防の為、水分摂取、体操、散歩等で便秘解消をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴ですが、必要に応じ臨機応変に対応を行うようにしています。	入浴は月、水、金、土曜日の午前を基本に週2回の入浴となっている。入浴を嫌がる場合には無理強いせず、気分を変えてから入浴誘導している。全介助の方にはシャワー浴で対応し、職員は利用者を洗体し、身体の異常の発見に努めている。一人で歌を歌ったり、穏やかに職員とおしゃべりをするなど、入浴はコミュニケーションを図る機会にもなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家族様に家での就寝時間や、起床時間を伺い、施設でもその時間に合わせて声掛けするようにしています。目覚めが早い方にはカーテンを変更し、良眠できるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所時にお薬説明書を確認、副作用等を職員に周知しています。変更があった際は、申し送りノートを利用し情報の共有化をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる事を把握し、その方に合ったレク、お手伝いをお願いしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で外出も取り入れており、季節ごとに咲く花を見に出かけたりしてます。普段でも、近隣を散歩したり、庭の花を見たり外に出る機会を作ってます。また、家族様との外出も頻繁にでかけてます。	天気の良い日には、ホーム周辺を散歩したり、プランターの花植えや手入れをし、外気に触れる機会を多くするよう努めている。家族の協力をいただいで外出したり、季節に合わせて春の花見や紫陽花見学、紅葉狩りなどに利用者全員が一緒に出かけ、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり、利用者様から希望の物があれば伺い職員が買い物をしています。また、本人も買い物に同行してもらい、欲しい物を選んで頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方で足の運べないご兄弟の方やご家族様から施設に電話やお手紙を送ってくれる方もおり、電話で会話を楽しまれています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は窓を大きく取り、明るく過ごせるようになってます。共季節に合わせて壁紙を変えたり、行事の写真飾りをつけてます。	ホールには窓から光が入り明るい雰囲気になっている。食卓兼用のテーブルが3台あり、利用者は自分の座る席や畳の小上がりで思い思いに過ごしている。壁面や天井には利用者と職員が一緒に作ったコスモスの花などが飾られ、季節感が感じられるよう工夫されている。整理整頓がなされ気になる匂いはない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格、年齢、身体機能等把握し、利用者様同士合った方とコミュニケーションを取りやすいよう考え、席の配置を考えております。また、その時々により、席替えをしたり、違う方との交流ができるよう工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、テーブル、椅子、ベッド、エアコンが設置しており、その他に自宅から持ってきたテレビや、写真、タンスをおかれ自分に合った配置を決めてもらっています。	居室には、テーブル、椅子、ベッド、エアコン、クローゼットが備え付けられ、家族写真やぬいぐるみ、位牌や遺影等、慣れ親しんだものを持ち込み、居心地良く工夫されている。孫からのプレゼント「おしゃべりケンちゃん」を大切に過ごしている方もいる。居室の入り口には、名前が書かれた木製のプレートが掲げられている。	

令和 6 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム いこいの華 B棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっており、壁には手すりを付け、廊下は車椅子でも行き来しやすく広がってます。車いすや、杖、歩行器で一人で歩け、自分で歩く意欲が持てるよう工夫しています。		